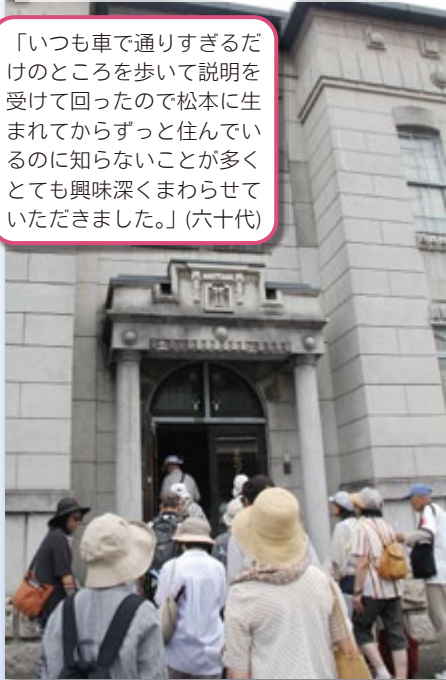


かわかみ建築設計室(旧松岡医院)見学

「いつも車で通りすぎるだけのところを歩いて説明を受けて回ったので松本に生まれてからずっと住んでいるのに知らないことが多くとても興味深くまわらせていただきました。」(六十代)



八月三日(日)に「第三地区まちづくりを考える会」の主催で子どもたちの夏休みの自由研究にも役立ててもらおうと松本の歴史を知ってもらおうまち歩き「まち探検隊」が行われました。定員三十名のところ八十名を超える参加希望があり、当日は四グループに分かれて、松本の製糸などの近代産業発展の歴史と湧水めぐり、松本城のお堀の名残や古い建築物を見ながら二時間半

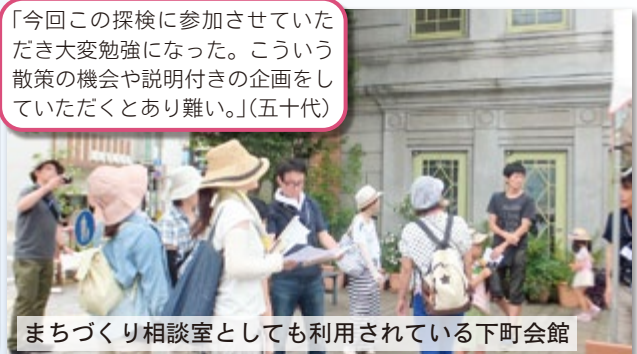
地域の魅力を再発見！
大好評だった「まち探検隊」

程のまち歩きをしました。資料も子供向けのものを用意して、古い地図や古い写真を片手にいつもは絶対に通らない裏小路などを歩いたので、暑い中でしたが参加者はとても楽しめた様子でした。最後に松本では一軒になってしまったお店のアイスクャンディーを食べ、「懐かしい」「おいしい」と喜びの声が聞かれました。(降旗 都子)



なまこ壁の説明

「いつもあまり聞けない話や通らない道を通ったり昔の歴史に触れることや湧き水を飲んでおいさを比べたりいつもあまりできないことができたので良かったです。」(小学生)



まちづくり相談室としても利用されている下町会館

「今回この探検に参加させていただき大変勉強になった。こういう散策の機会や説明付きの企画をしていただくとありがたい。」(五十代)



火災の映像に水をかけて消火体験
(札幌市防災センターにて)

八月一日に札幌市で開催された、北海道札幌市と北海道奈井江町、松本市の子どもが交流する「3まち」子ども交流事業」に第三地区あがたの森未来サミットの児童・生徒が参加しました。あがたの森未来サミットとは、あがたの森周辺の小中学校及びあがた児童館の子どもたちで結成され、朝のあいさつ運動などの地域活動をしている団体です。未来サミットの小学生・高校生までの計九人の子どもたちが札幌市と奈井江町の子どもたちと一緒に札幌市民防災センター見学やグループワークを行い、地震や大雪対策などの防災の勉強をしました。



“3まち”の子どもたちで記念撮影
(松本市・札幌市・奈井江町)



グループワークで防災について意見を出し合う

「3まち」子ども交流事業にあがたの森未来サミットの児童・生徒が参加しました！

わかばの会 座談会

教養部部長 小祝 慶子



グループに分かれて、ざっくばらんに話し合い

現会長で西埋橋にお住まいの白井和夫先生と、第三地区まちづくりを考える会代表で四ツ谷東にお住まいの降旗都子さんです。白井先生は小中学校での教職員また校長先生としてのご経験、ご退職後の不登校支援アドバイザーとしてのご経験を活かして、子育てや学校教育に関わること的的確なアドバイスをくださいました。降旗さんは、まちづくりに関することのみならず、ご自身の子育てや保育士と

第三地区育成会「わかばの会」教養部では、七月十二日(土)第三地区公民館にて「地域のつながりによって支えられる子育て」をテーマに座談会を開催しました。昨年度までは、各種講演会が催されてきましたが、今年度は二名の先生方にアドバイザーとしてご協力いただきながらも参加者の方々が語り合い、参加者で作り上げる座談会を企画しました。

してのご経験から、心を寄せた参加者の話を聴いてくださいました。

座談会は、小グループに分かれ、自己紹介から始まりました。が、子育て・学校・多世代同居・地域の環境等に関する事など本音を伝え合い、聴き合う場となりました。座談会後、「色々な経験をされているお母さんたちの話を聴けて参考になりました。どんな立場でも悩みはあるので、それを言えることが大切だと思いました。」「困っていることなど、話が途切れることなく、皆で参加しているようでした。」などの感想が寄せられました。

近年、仕事を持つ母親が増え、家事と仕事に多忙のため、近隣の母親同士や年配の方々との交流するゆとりもない子育て世代が多いように思います。悩んでいても「助けて」と言えない人。誰に本音を話してよいか分からない人。不安を抱えながら孤立している若い母親。そのような人が安心して心の内を話せる場が必要なのではないかと改めて感じました。

今回の座談会では、約五十名の参加者の皆さま、育成会の皆さまそしてアドバイザーの先生方のおかげで、充実した時間を持つことができました。今後考えていくべき課題もたくさんいただきました。ご協力いただいた皆さまに心から感謝申し上げます。

第三地区の夏

台風が通り過ぎ、晴天に恵まれた7月12日(土)に松本市美術館で夕涼みの会が催されました。

芝生中庭では色鮮やかな衣装でハワイアン・フラダンスが披露され、みゅーじ庵手打ち蕎麦のコーナーや屋台村・風船つりも大盛況でした。

市民アトリエではアトリエコンサートも開催され、今年も夏の夕涼み会が華やかに幕をとじました。(田中 伸季)



ボンボン釣りは大盛況



可愛いフラダンスで気分は南国!



踊りもまじえたアフリカ太鼓の演奏



華やかな、ほんぼん



元気いっぱいの青山様

台風11号の接近により開催が危ぶまれましたが、8月9日(土)あがたの森正面通路で第14回あがたの森夏まつりが開催されました。

オープニングセレモニーは、あがた児童館の子どもたちと「サブニューマ」によるアフリカ太鼓の演奏が披露され、会場は大いに盛り上がりしました。

空模様はあいにくの曇りでしたが、地区の子どもたちによる青山様・ほんぼんの元気な姿や、各町会の様々な出店などで会場は満面の笑みで溢れていました。

美術館で夕涼み!

コンサート&ハワイアン・フラ

第14回

あがたの森夏まつり開催



「井戸端会議」という言葉を広辞苑で引くと「共同井戸の辺りで水汲みや洗濯をしながら女の人たちがうわさや世間話をする」と書かれている。最近、この井戸端会議がまちにとってとても大切なものだったのでないかと感じるようになってきた。七月にわかばの会の教養部が企画した座談会に参加した。いくつかのグループに分かれ、まちのこと、日々の生活の中での悩み、子育ての悩みなど様々な話題で色々な年代の人たちがそれぞれの立場で話をしていった。これが、四十代以下の若いお母さん方にはとても新鮮で有意義な時間だと感じられたらしい。昔はこのような話し合いが当たり前でできていて、それが井戸端会議だったのでないだろうか。その井戸端会議で話された内容が、たわいもないことから、町内の問題提起まで多岐にわたっていたに違いない。しかし今の時代、隣に住む人でさえ挨拶をかわす程度になってしまっている。もっと井戸端会議的な機会が増えるときまちが活性化するような気がした。

(降旗 都子)